

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月7日
【四半期会計期間】	第17期第3四半期（自平成25年10月1日至平成25年12月31日）
【会社名】	株式会社マーベラスAQL
【英訳名】	Marvelous AQL Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 許田 周一
【本店の所在の場所】	東京都品川区東品川四丁目12番8号
【電話番号】	03-5769-7447
【事務連絡者氏名】	取締役 山角 信行
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区東品川四丁目12番8号
【電話番号】	03-5769-7447
【事務連絡者氏名】	取締役 山角 信行
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第3四半期 連結累計期間	第17期 第3四半期 連結累計期間	第16期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (千円)	12,143,897	14,666,345	17,579,434
経常利益 (千円)	1,673,067	2,231,928	2,325,901
四半期(当期)純利益 (千円)	1,386,054	1,392,340	1,919,042
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,387,236	1,408,862	1,915,469
純資産額 (千円)	10,166,431	11,435,339	10,694,665
総資産額 (千円)	14,333,053	16,254,180	15,341,883
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	25.93	26.05	35.90
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	70.9	70.4	69.7

回次	第16期 第3四半期 連結会計期間	第17期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	13.86	9.95

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、希薄化効果を有している潜在株式がないため記載しておりません。
4. 平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算出しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるエンターテインメント業界は、ソーシャルゲーム市場の成長率に鈍化傾向が見られましたが、スマートフォンの急速な普及により、従来型のWebブラウザゲームに加えて、スマートフォンにインストールして遊べるアプリゲーム市場が急拡大いたしました。また、家庭用ゲーム市場におきましては、欧米で先行発売された新型の据え置き型ゲーム機が非常に好調な売上を記録しており、ゲーム専用機の潜在需要も改めて確認されました。音楽・映像分野では、スマートフォンの浸透に伴う無料動画サイト等の充実から、ソフト市場は依然として厳しい環境下にあります。一方で、会場の雰囲気や一体感を楽しむことができるライブエンターテインメントは、その市場規模を着実に拡大させております。

このような状況下、当社グループは、多彩なエンターテインメントコンテンツをあらゆる事業領域において様々なデバイス向けに展開する「マルチコンテンツ・マルチユース・マルチデバイス」戦略を基軸とした総合エンターテインメント企業として、強力なIPを中核としたブランディング戦略・アライアンス戦略・グローバル戦略を積極的に推進し、話題性の高いコンテンツの提供とサービスの強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年12月31日）の業績は、売上高14,666百万円（前年同期比20.8%増）、営業利益2,160百万円（前年同期比25.9%増）、経常利益2,231百万円（前年同期比33.4%増）、四半期純利益1,392百万円（前年同期比0.5%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

オンライン事業

当事業のPCブラウザゲームにおきましては、「ブラウザ三国志」をはじめとする主力タイトルが引き続き健闘しておりますが、リリースからの年月経過や、市場自体の縮小傾向に伴うかたちで、収益面では前年同期を下回る結果となりました。モバイルゲームにおきましては、前期から好調の「一騎当千パーストファイト」、「閃乱カグラ NewWave」に続きまして、平成25年9月リリースの「ハイスクールD×D」が順調に立ち上がりました。また、LINE向け初のタイトルとなる「LINE らんらん勇者」を平成25年11月に、PCゲームでも根強い人気を誇る「剣と魔法のログレス」のネイティブアプリ版を平成25年12月にリリースいたしました。しかしながら、会員数の伸びに比例せず、課金売上に繋がらなかった「コインサーガ」や「聖戦ドラゴンオーブ」の推移が芳しくなく、結果として、サービス停止による開発費の一括償却を行っております。

これらの結果、売上高は6,267百万円（前年同期比18.8%増）、営業利益は408百万円（前年同期比35.5%減）となりました。

コンシューマ事業

当事業の自社販売部門におきましては、平成25年5月発売の「ヴァルハラナイツ3（PS Vita）」が順調な販売となりました。また、前期発売の「閃乱カグラSHINOVI VERSUS -少女達の証明-（PS Vita）」や「朧村正（PS Vita）」、その他の旧作りピート受注も好調に推移いたしました。海外事業につきましても、米国子会社 Marvelous USA, Inc.の販売が順調に推移いたしました。

アミューズメント部門につきましては、平成24年7月に稼働を開始した、キッズアミューズメント筐体の「ポケモンレッタ」が好調を継続しており、当事業の収益に大きく貢献いたしました。

これらの結果、売上高は5,424百万円（前年同期比21.5%増）、営業利益は1,812百万円（前年同期比51.5%増）となりました。

音楽映像事業

当事業の音楽映像制作部門におきましては、プリキュアシリーズのTVアニメ「ドキドキ！プリキュア」や当社主幹事作品のTVアニメ「やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。」の映像商品化を行い、いずれも順調な推移となりました。

ステージ制作部門におきましては、「ミュージカル『テニスの王子様』」において合計134公演分の実績を計上し、関連DVDを6作品発売いたしました。また、「舞台『弱虫ペダル』」や「ミュージカル『薄桜鬼』」も当事業の主力シリーズとして、舞台公演と関連DVDの両方が収益に貢献しております。

これらの結果、売上高は2,974百万円（前年同期比23.7%増）、営業利益は639百万円（前年同期比18.7%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当社グループの当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、資産16,254百万円（前連結会計年度末比912百万円増）、負債4,818百万円（前連結会計年度末比171百万円増）、純資産11,435百万円（前連結会計年度末比740百万円増）となりました。

（流動資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、現金及び預金の増加ならびにたな卸資産の増加等により13,812百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,219百万円増加いたしました。

（固定資産）

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は、投資有価証券の売却等により2,441百万円となり、前連結会計年度末に比べ307百万円減少いたしました。

（流動負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、借入金等の返済による減少のほか、未払法人税等の増加等により4,760百万円となり、前連結会計年度末に比べ189百万円増加いたしました。

（固定負債）

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は、1年内返済予定の長期借入金への振替等により58百万円となり、前連結会計年度末に比べ17百万円減少いたしました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、四半期純利益の累積が前連結会計年度の期末配当による剰余金の減少を上回った結果、11,435百万円となり、前連結会計年度末に比べ740百万円増加いたしました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題に重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、オンライン事業93百万円、コンシューマ事業38百万円、総額は131百万円となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	90,000,000
計	90,000,000

(注) 平成25年5月24日開催の取締役会決議において、平成25年10月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は89,100,000株増加し、90,000,000株となっております。

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	53,593,100	53,593,100	東京証券取引所 (市場第一部)	(注)2
計	53,593,100	53,593,100	-	-

(注)1 提出日現在の発行数には、平成26年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

2 平成25年5月24日開催の取締役会決議により、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割するとともに、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用いたしました。これに伴い、発行済株式総数は53,057,169株増加し、53,593,100株となっております。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年10月1日 (注)	53,057,169	53,593,100	-	1,128,472	-	1,129,991

(注) 平成25年5月24日開催の取締役会決議により、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割するとともに、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用いたしました。これに伴い、発行済株式総数は53,057,169株増加し、53,593,100株となっております。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、該当事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,380	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 534,551	534,551	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	535,931	-	-
総株主の議決権	-	534,551	-

(注)平成25年5月24日開催の取締役会決議により、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割するとともに、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用いたしました。これに伴い、完全議決権株式(その他)の株式数は53,455,100株、議決権数は534,551個、発行済株式総数は53,593,100株、総株主の議決権数は534,551個となっております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社マーベラスAQL	東京都品川区東品川四丁目12番8号	1,380	-	1,380	0.26
計	-	1,380	-	1,380	0.26

(注)平成25年5月24日開催の取締役会決議により、平成25年10月1日付で1株を100株に株式分割するとともに、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しております。これに伴い、自己保有株式の総数は138,000株となっております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,123,957	7,710,510
受取手形及び売掛金	3,515,610	3,726,702
電子記録債権	28,386	42,430
有価証券	-	73,899
たな卸資産	957,674	1,467,566
その他	1,013,380	860,640
貸倒引当金	45,541	68,967
流動資産合計	12,593,467	13,812,781
固定資産		
有形固定資産	611,596	565,073
無形固定資産		
のれん	227,096	145,967
その他	1,141,852	1,248,591
無形固定資産合計	1,368,949	1,394,559
投資その他の資産	876,858	604,707
貸倒引当金	108,989	122,941
固定資産合計	2,748,415	2,441,399
資産合計	15,341,883	16,254,180
負債の部		
流動負債		
買掛金	769,468	686,030
短期借入金	602,005	590,740
1年内返済予定の長期借入金	180,503	74,403
未払印税	965,837	951,201
未払法人税等	226,863	691,139
引当金	126,214	-
その他	1,699,746	1,766,684
流動負債合計	4,570,637	4,760,199
固定負債		
長期借入金	64,520	44,584
資産除去債務	12,059	14,058
固定負債合計	76,579	58,642
負債合計	4,647,217	4,818,841

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,128,472	1,128,472
資本剰余金	6,373,514	6,373,514
利益剰余金	3,226,614	3,950,766
自己株式	27,726	27,726
株主資本合計	10,700,875	11,425,027
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11	35
為替換算調整勘定	6,220	10,275
その他の包括利益累計額合計	6,209	10,311
純資産合計	10,694,665	11,435,339
負債純資産合計	15,341,883	16,254,180

(2)【四半期連結損益及び包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	12,143,897	14,666,345
売上原価	6,221,182	7,410,217
売上総利益	5,922,714	7,256,127
販売費及び一般管理費	4,207,184	5,095,756
営業利益	1,715,530	2,160,370
営業外収益		
受取利息	4,229	1,982
為替差益	28,423	74,481
その他	2,966	4,117
営業外収益合計	35,619	80,581
営業外費用		
支払利息	9,973	6,836
持分法による投資損失	67,139	-
貸倒引当金繰入額	-	1,948
その他	969	238
営業外費用合計	78,081	9,023
経常利益	1,673,067	2,231,928
特別利益		
投資有価証券売却益	-	¹ 37,469
特別利益合計	-	37,469
特別損失		
固定資産売却損	-	197
減損損失	-	² 49,374
和解金	-	³ 49,905
特別損失合計	-	99,476
税金等調整前四半期純利益	1,673,067	2,169,920
法人税等	287,013	777,580
少数株主損益調整前四半期純利益	1,386,054	1,392,340
少数株主利益	-	-
四半期純利益	1,386,054	1,392,340
少数株主利益	-	-
少数株主損益調整前四半期純利益	1,386,054	1,392,340
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	282	24
為替換算調整勘定	3,174	13,206
持分法適用会社に対する持分相当額	1,710	3,290
その他の包括利益合計	1,181	16,521
四半期包括利益	1,387,236	1,408,862
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,387,236	1,408,862
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

(偶発債務)

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入等に対し、重畳的債務引受を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
株式会社アニメーションスタジオ・アートランド	23,198千円	20,408千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 投資有価証券売却益の内容は次のとおりであります。

当社が保有するその他有価証券の一部を平成25年9月に売却したことによるものであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
株式会社マイクロキャビン株式	-	37,469千円

2 減損損失の内容は次のとおりであります。

当社グループは、以下の資産について減損損失を計上いたしました。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

減損損失を認識した資産

用途	種類	場所	減損損失
-	のれん	-	49,374千円

減損損失の認識に至った経緯

当社の連結子会社であるMarvelous USA, Inc.が前連結会計年度に事業譲受により取得したIndex Digital Media, Inc.のオンラインゲーム事業において、当初想定していた収益を見込めなくなったことから減損損失を認識し、当該のれんの帳簿価額を全額減損損失としております。

3 和解金の内容は次のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

Checkpoint Studios, Inc.との間で生じていた係争に関して和解が成立したことから、同社に支払った和解金であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。
なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	630,874千円	869,797千円
のれんの償却額	1,161千円	34,882千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

配当金支払額

平成24年5月10日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	323,403千円
1株当たり配当額	605円00銭
基準日	平成24年3月31日
効力発生日	平成24年6月8日
配当の原資	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

配当金支払額

平成25年5月10日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	668,188千円
1株当たり配当額	1,250円00銭
基準日	平成25年3月31日
効力発生日	平成25年6月7日
配当の原資	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注)2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,276,417	4,463,815	2,403,664	12,143,897	-	12,143,897
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	1,525	1,525	1,525	-
計	5,276,417	4,463,815	2,405,189	12,145,422	1,525	12,143,897
セグメント利益	632,773	1,196,424	538,638	2,367,837	652,307	1,715,530

(注)1 セグメント利益の調整額 652,307千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注)2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,267,959	5,424,525	2,973,860	14,666,345	-	14,666,345
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	640	640	640	-
計	6,267,959	5,424,525	2,974,500	14,666,985	640	14,666,345
セグメント利益	408,191	1,812,447	639,129	2,859,769	699,399	2,160,370

(注)1 セグメント利益の調整額 699,399千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社の連結子会社であるMarvelous USA, Inc.が前連結会計年度にIndex Digital Media, Inc.のオンラインゲーム事業を取得したことにより発生した「オンライン事業」に係るのれんについて、49,374千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「オンライン事業」において、上記「固定資産に係る重要な減損損失」に記載した減損損失の計上により、のれんの金額が49,374千円減少しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	25円93銭	26円5銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	1,386,054	1,392,340
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	1,386,054	1,392,340
普通株式の期中平均株式数(株)	53,455,100	53,455,100

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式がないため、記載していません。

2. 平成25年10月1日付で普通株式を1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算出しております。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月7日

株式会社マーベラスAQL
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 堀 切 進 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 河 合 宏 幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社マーベラスAQLの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社マーベラスAQL及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。